

5. 内分泌・糖尿病内科

内分泌・糖尿病内科部長 井上智彰

2023年は、2022年度に引き続き常勤医師5名、非常勤医師1名の6人体制で糖尿病及び内分泌疾患の診療をあたりました。

新規糖尿病治療薬である持続性GIP/GLP-1受容体作動薬が登場し、非常に高い体重減少効果作用を持ち、肥満を合併する2型糖尿病患者において有効な治療選択の一手になると期待されております。一方で、GLP-1受容体作動薬のダイエット目的の適用外処方が社会問題となっており、供給不足から糖尿病患者への治療にも影響を与えております。当科ではGLP-1受容体作動薬の適正使用に心がけております。

今後も医師、看護師、管理栄養士、薬剤師によるチーム医療を充実させ、総合病院の特性を活かした他科との連携を継続し、筑豊の地域医療に貢献してまいりたいと思っております。

入院患者疾患別内訳（2023年）

病名	総計	急患	性別		年齢 (平均値)	在科日数 (平均値)
			男	女		
糖尿病	241	23	153	88	65.7	10.4
2型糖尿病	203	12	130	73	67.3	10.4
1型糖尿病	30	7	16	14	54.8	9.7
膵性糖尿病	7	4	6	1	64.4	11.0
その他の糖尿病	1	0	1	0	67.0	13.0
内分泌疾患	44	0	20	24	58.4	5.5
原発性アルドステロン症	6	0	3	3	52.1	4.3
褐色細胞腫	2	0	1	1	57.5	3.0
クッシング症候群	2	0	0	2	53.5	4.5
副腎不全	3	0	2	1	52.7	4.0
副腎腫瘍	1	0	0	1	59.0	5.0
下垂体腺腫	3	0	1	2	37.0	9.3
下垂体機能低下症	7	0	4	3	55.4	5.9
中枢性尿崩症	1	0	1	0	22.0	11.0
クッシング病	1	0	0	1	55.0	5.0
TSH産生腫瘍	1	0	0	1	87.0	4.0
バセドウ病	3	0	2	1	67.0	7.7
甲状腺腫瘍	1	0	1	0	61.0	5.0
副甲状腺機能亢進症	13	0	5	8	68.6	5.0
その他	19	12	11	8	63.4	5.5
低ナトリウム血症	2	1	0	2	66.5	9.0
高カルシウム血症	2	0	1	1	65.5	4.5
低カルシウム血症	1	1	1	0	32.0	5.0
その他	14	10	9	5	64.9	5.2
総計	304	35	184	120	64.5	9.3